


 いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

～ ご協力よろしく申し上げます ～

いわき市立総合磐城共立病院 救命救急センター長 小山 敦



救急隊が現場到着後、搬送先が決まるまでに病院間い合わせ10回以上を要した件数が、福島県内ではいわき市で圧倒的に多いとの報道がありました。市民には不安を覚えた方も多いと思います。また、救急隊員も本来不要な苦勞を強いられています。救急医療に携わるものとしては大変残念な内容でした。数年前から、救急隊現着～病院着時間の延長傾向が明らかとなり、共立病院としても医師全体集会を開いて救急体制について話し合い、内科外科輪番体制をつくり、救命救急センターから院内各科へ患者を振り分け、救急医が受け入れに専念しやすくする、1次2次救急車の近隣発生例の一部受け入れを始める(平成19年、363台を1次2次ゾーンで収容)などの対策をとってきました。

しかしながら、当院においても1次2次救急を担当する医師、特に内科医の減少が進み、救急車受け入れどころか、当直体制を維持し3次救急の呼び出し待機をすることで手一杯になってきました。医師不足が叫ばれる中、救急医療に費やす余力が十分ある医療機関はいわき市にはおそらく無いと思います。現状を打開するためには、一病院ではいかんともしがたく、また共倒れを防ぐためにも、すべての関係機関が出せる力を出し合い連携することが必要と考えます。と同時に、救急車や休日夜間外来の適正利用をアピールしていくことも重要であると思います。

連携の仕方は様々考えられますが、私たちの考えでは、3次救急は救命救急センターで、1次2次救急は輪番病院でそれぞれ初期対応を行い、病状に応じて、お互い紹介し合うといった協力体制が望ましいと考えています。救命救急センターでは、救命の可能性のある緊急かつ重症の患者を確実に受け入れることを最優先に考えています。救急隊もほぼ同じスタンスで病院選定を行っており、当院が3次救急とわかってお断りすることは原則的にありません。万一、取りこぼし重症例が発生した場合のバックアップとともに、1次2次救急の可能な限りの受け入れに引き続き協力をお願いいたします。お願いばかりになってしまいますが、当院地域医療連携室は現在当日対応が不十分なため、救急に関して利用しづらいことと思います。誠に申し訳ありませんが、救急車でのご紹介は今しばらく現在の方法(代表→看護師→担当科医師)でお願いします。各科各様の状況があるためです。ただしショック状態など、心肺危機が切迫している場合は、その旨を看護師にお伝えくだされば、可及的速やかに対応させていただきます。担当科不明の場合は、救急科を指定してください。ご不便をおかけしますがご理解ご協力のほどお願いいたします。



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246(26)2250(直通) FAX 0246(26)2119

URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>

E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp

診療科
紹介

呼吸器内科

呼吸器内科

大沼 菊夫

[現在のスタッフ]

呼吸器内科では、昨年まで大沼（日本呼吸器学会専門医・指導医、日本感染症学会専門医・指導医）が単独で診療していましたが、今年、澁佐隆医師（日本呼吸器学会専門医、日本気管支学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、日本内科学会専門医）が着任し、さらに後期研修医として美佐健一医師が加わって、久しぶりに診療体制が強化されました。

これにより、救急部経由の呼吸器疾患患者のほとんどを当科で引き受けることが可能となり、外来では紹介状のある患者についてはすべてを診療することができるようになりました。その結果、呼吸器病棟は満床となることも多くなりました。

しかし、業務量が多いため、現在のスタッフではここまですが限界であり、紹介状のない方の診療はまだできる状態にありません。また重症の急患については、救急部の経由が必要であり、直接診療に入るのは困難な状況です。

[外来]

外来は、月・木は大沼、火・水は澁佐、金は福島県立医大呼吸器科からの応援医師がそれぞれ担当しています。県立医大の医師には、間質性肺炎・肺線維症・サルコイドーシスなどのびまん性肺疾患の再来を診ていただいております。患者の状態により県立医大への紹介や転院がスムーズに行われています。

当科へのご紹介の際、結核・非定型抗酸菌症・難治性気管支拡張症・びまん性肺疾患は大沼へ、結節影・腫瘍・血痰・大量胸水の場合は澁佐へご紹介下されば、よりスムーズな連携となると思います。肺炎・気管支喘息・COPDはどちらでもかまいません。

[呼吸器内科医の不足]

いわき市には呼吸器病を専門とする医師が少なく、ベッドも不足しがちです。そこで、外来診療が可能な部分については、開業の先生方をお願いしたいと思っております。たとえば重症でない肺炎では、ロセフィン1日1回点滴やクラビット4T(分2)などで治療できると思われれます。マイコプラズマが関与していると考えられるケースではミノマイシン経口の単独または併用での使用がよいと思います(妊娠時はマクロライド系)。

マイコプラズマ肺炎に関しては、血中抗マイコプラズマIgM抗体の検出は速やかにでき参考になります。

また中等度までの気管支喘息においては、ステロイド吸入の定期的使用とβ刺激薬吸入頼用のみでほとんどがコントロールできます。睡眠が妨げられる程度の発作があれば（初日にデカドロン8mg点滴の後）プレドニン20-30mg経口(分2)を数日間追加し、痰が膿性であれば経口抗菌薬を加えます。

[肺炎の予防]

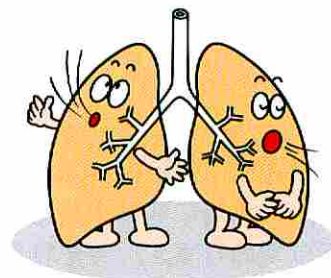
肺炎については予防も大切であり、インフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチンの接種を推進していただきたいと思います。さらに高齢者に睡眠薬を使用することは、夜間の唾液誤嚥を促進し、肺炎発生の主要な原因の一つとなると考えますので、ぜひ制限して下さるようお願いいたします。

[市内の勉強会]

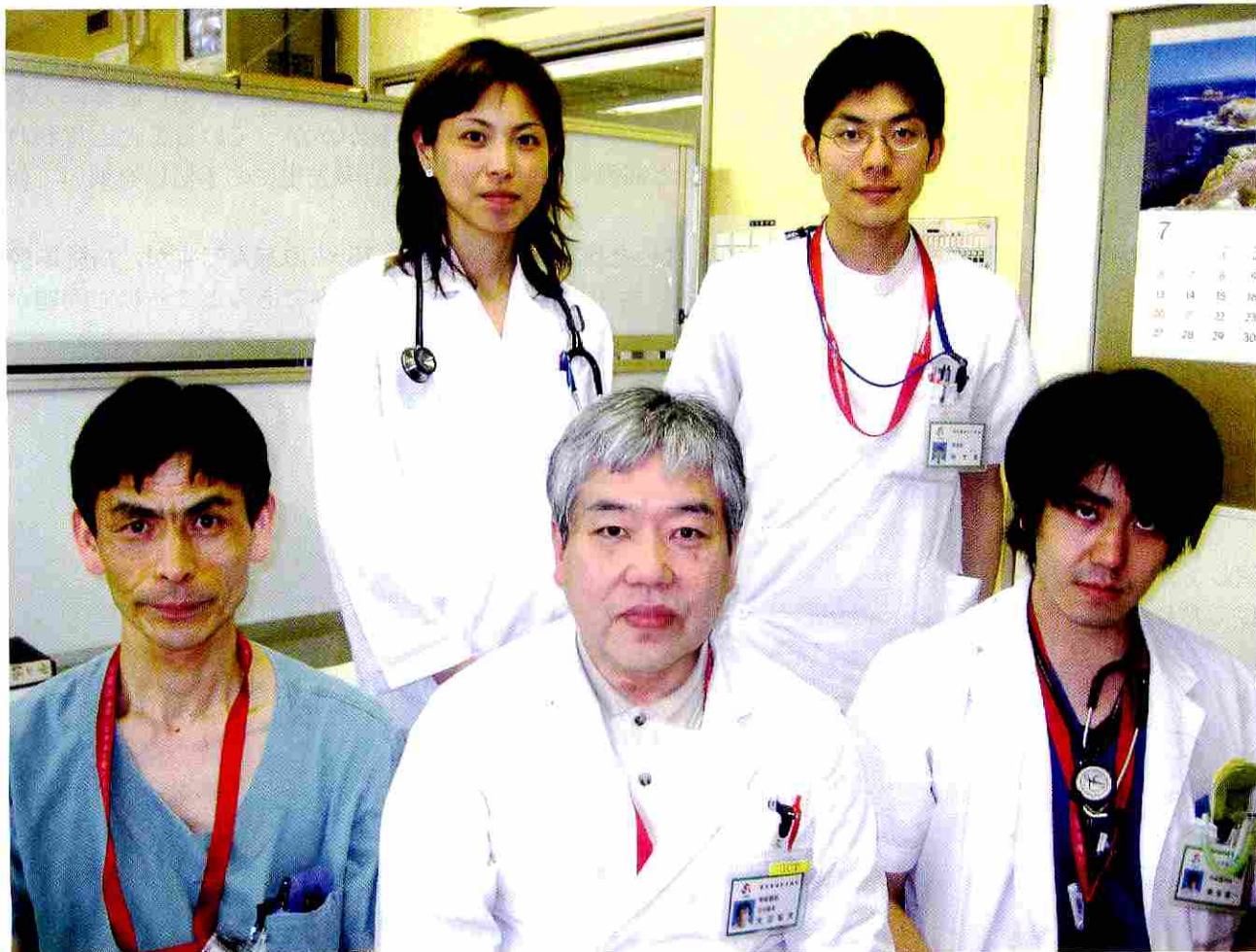
肺癌呼吸器疾患勉強会は、今年から内容を変更し、症例検討を主とする会になっています。市内の各施設から興味ある呼吸器疾患症例が多数報告されますので勉強になります。ご参加をお待ちしています。

[今後について]

当科の大沼、澁佐はともに50歳代半ばであり、現在の体制も長くは続きません。数年のうちに若い医師を中心とするチームができるように努力したいと考えています。



〈呼吸器内科医局員〉





麻 酔 科

麻 酔 科

矢 内 裕 宗

いわき市立総合磐城共立病院麻酔科の現況について

いわき市立総合磐城共立病院は、福島県浜通りの中核病院として地域医療の充実のため中心となって活動しております。当院麻酔科の歴史は古く、岩手医科大学 千葉先生を中心として発展し、1994年より筑波大学麻酔科医局からの麻酔科医が中心となって麻酔・手術室業務を運営し、2004年8月に福島医大が共立病院麻酔科に加わり、2007年4月現在では福島医大3名(矢内、根本、佐藤)、及び筑波大学3名(飯嶋、段村、恩田)の計6名で年間約3500件の麻酔科管理症例を行っております。また常時1～2名の初期研修医が麻酔科研修を行っております。

外来はペインクリニックと術前評価・麻酔の説明を行っております。ペインクリニックは毎週水曜日で飯嶋が担当し、10～15名の外来患者や院内緩和ケアの診察、治療にあたっています。術前評価・麻酔の説明は毎日行っております。

麻酔科専用の病棟や病床はありませんが、必要に応じてベッドを確保し、ペインクリニックの治療を行っております。今年特記すべきことは、緩和ケアの治療のため、持続クモ膜下ブロック・モルヒネ投与を開始したことです。

当院の特徴は、1) ほぼすべての外科系の科が存在し、麻酔管理の症例が豊富であること 2) 緊急・臨時手術が多いこと、の2点です。

2006年10月には福島県で最初となる脳死ドナー患者からの臓器摘出管理も経験しました。当院麻酔科が持つ最近の問題点は、1) 麻酔科管理症例数の増加 2) 夜間の緊急手術増加 3) 研修医の教育 4) 救急救命士の気管挿管などのため麻酔科スタッフに大きな負荷がかかっていることと思われる。そのため福島医大麻酔科及びいわき麻酔と痛みのクリニック 洪 浩彰先生にお手伝いを頂いて何とか運営を保っているところです。

いわき市は人口35万の都市で、周辺地区を含めた医療圏総人口は約45～50万人ですが、病院麻酔科勤務医は当院の6名、福島県立大野病院1名、南相馬市立病院の1名のみであるところにも問題があると考えられます。少しでも多くの研修医の先生方が麻酔科に興味を持ち、麻酔科医として従事してくれることを熱望して、日夜努力をしております。



〈麻酔科医局員〉



・新・任・医・師・紹・介・



消化器科：織内 竜生 医師

4月よりお世話になっております。
東北労災病院より赴任して参りました。
いわきは21年ぶりになりますが、地域医療に貢献できるよう努力して
いきたいと思っております。

循環器科：多田 智洋 医師

このたび循環器科に新任いたしました多田智洋です。北海道函館市生まれで、東北大学出身です。
趣味は球技一般で、バスケットボール、バレーボール、野球、テニス、ゴルフなどなんでもやります。
座右の銘は、「知不知、知未知、知無知」です。よろしくお願いいたします



血液内科：阿久津 和子 医師

4月より血液内科に赴任しました。
今後は先生方及びスタッフの皆さんと力を合わせて頑張りたいと思います。
よろしくお願いいたします。

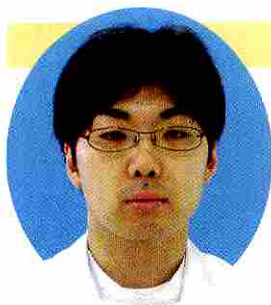
未熟児新生児科：川村 哲夫 医師

4月より本田先生の下でNICUに従事しています。
重症な患者さんが多く、1ヶ月以上休みのない苛酷な状況ですが地域周産期の要として頑張っていきたいと思っております。



呼吸器内科：澁佐 隆 医師

4月から呼吸器内科に勤務しています。当院では主に肺腫瘍の患者を担当しています。また、気管支内視鏡検査を担当することになり、症例を増やすとともに、臨床面に役立てていきたいと考えていますので
よろしくお願いいたします。



外科：青木 豪 医師

4月より磐城共立病院外科に勤務しております青木豪です。平成13年東北大学医学部を卒業後、帯広第一病院で3年間外科研修をいたしました。平成16年東北大学大学院消化器外科学に入局し、今年の春卒業いたしました。大学院では膵臓疾患に携わってございました。諸先生方には何かとご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、少しでもいわき地域の癌医療を担えればと、日々精進していく所存です。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

整形外科：田口 浩子 医師

平成20年4月より整形外科でお世話になっております。平成13年に福島県立医大を卒業し、現在、脊椎を中心に勉強中です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



整形外科：峯田 光能 医師

平成10年より2年間、磐城共立病院整形外科で働き、整形外科医としての礎を築くことができました。今年3月、東北大学にて大学院を終了し再び当院にて働く機会を得ることができ、大変感謝しております。

脳神経外科：鈴木 保宏 医師

4月から脳神経外科に参りました。これまでの経験を生かして地域医療に貢献したいと思います。



脳神経外科：中村 太源 医師

今年4月より脳神経外科に配属となりました。中村太源と申します。宮城県塩釜市の病院で初期研修を終え、平成19年4月に東北大学脳神経外科に入局しました。専門医前でまだまだ勉強中の身であり、至らない点が多々あると思いますが精一杯頑張りますので、ご指導、ご教示のほど、よろしくお願い申し上げます。



形成外科：黒川 祐 虎 医師

いつも大変お世話になっております。医師として5年目、形成外科医としてはまだ3年目ですが、できる限り勉強して一人前を目指します。どうぞ温かい目で見守って下さいね。

形成外科：棚倉 健 太 医師

4月より筑波大学附属病院からいわきへ赴任いたしました。どうぞよろしくお願い致します。
3ヶ月がたとうとしておりますが、新しい職場にもある程度慣れ、温泉、食といわきを満喫させて頂いております。

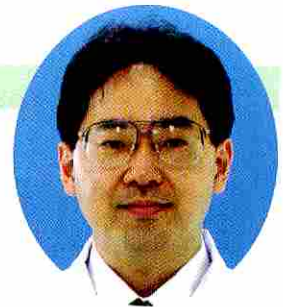


泌尿器科：佐藤 琢 磨 医師

泌尿器科の佐藤琢磨です。前任地は宮城県大崎市古川（大崎市民病院）です。地域医療を守る一助になれば幸いです。
趣味はテニスです。よろしくお願い致します。
(某F1レーサーと同姓同名です。)

歯科口腔外科：森 裕 介 医師

本年4月に着任いたしました。東北大歯学部卒業後、東海大口腔外科で臨床に6年間従事し、その後、神奈川歯科大学病理学の大学院で唾液腺腫瘍の研究を行ってきました。
質の良い医療を提供できるようがんばります。

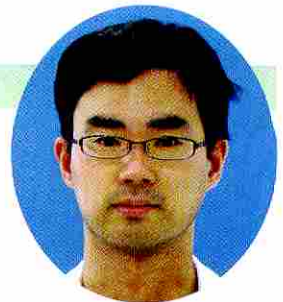


麻酔科：段村 雅 人 医師

4月から茨城より赴任してきた麻酔科医の段村です。
磐城共立病院は救急患者、緊急手術が多く、麻酔科医が担う役割は大きい病院です。7名の麻酔科医で手術を支えています。

麻酔科：恩田 将 史 医師

まだまだトレーニング中の身ですが患者さんや外科の先生方に納得して頂ける麻酔がかけられるよう努力していきます。





院内紹介

店長：市川 悟さん

今年の6月上旬にリニューアルしまして、コンビニ風店舗となり、車イスの方でも楽に買い物ができるようになりました。



新しくなった売店の様子



ご来院の際は
お立ち寄りください。

売店のみなさん

病院機能評価訪問審査が実施されました

当院では医療に対する信頼と質の一層の向上を図ることを目的として、7月9日～11日までの3日間、(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査を受審しました。



台同面相会場(面相風景は撮影禁止でした。)



7月11日 午後5時30分 受審を終えて

8月下旬に中間報告があり、来年1月には本審査の結果が報告されます。

地域医療連携室業務時間
月～金 8:30～17:15